

築城海軍航空隊と戦時の暮らし

築城飛行場建設

■訓練飛行場から神風特攻隊出撃基地へ



築城飛行場(昭和22年 米軍撮影)

対角線の白線が滑走路。写真上部が掩体壕のある稲童地区。

昭和14年(1939)、築城海軍航空隊飛行場(145万㎡)の建設が始まった。築上町から行橋市にかけての海辺は天候が安定し、中国大陸に近いため好立地とされた。

昭和16年(1941)に太平洋戦争が始まると、建設は急がれ、昭和17年(1942)に完成した。

築城飛行場では主にゼロ戦や93式中間練習機(通称赤トンボ)による訓練が行われた。

昭和20年(1945)2月、神風特攻隊が編成され、赤トンボに250kg爆弾を抱えて急降下する訓練が始まった。

築城飛行場周辺の施設と空襲

■えんたいごう 掩体壕や弾薬庫の整備



広末弾薬庫壕

昭和19年以降、米軍機による飛行場周辺の空襲が増え、稲童地区(行橋市)には戦闘機が上空から見えないよう格納する掩体壕が築かれた。

また、金富神社(築上町湊)社叢も森に囲まれ上空から見えないため、戦闘機の格納・整備場所とされた。

広末・赤幡の丘陵にはトンネルを掘り、弾薬庫や通信施設、発電施設、兵舎が造られた。

■3度の空襲で多くの民間人が犠牲に

飛行場周辺では3度の空襲があった。昭和20年3月18日と7月25日の空襲は稲童掩体壕付近が大きな被害に遭った。特に3月18日の空襲は神風特攻隊銀河隊の出撃に対する報復措置であったという。8月7日の重箱池周辺の空襲では多数の民間人と37名の兵士が死亡。上城井国民学校(築上町下本庄)では機銃掃射で教師・児童4名が死亡し、数人が負傷した。翌8日(地元証言では9日)、局地戦闘機“紫電改”が米軍機P51と戦闘の末、築上町小原に墜落した。

築城飛行場と神風特攻隊



神風特攻隊「菊水部隊銀河隊」出撃之地石碑

昭和20年(1945)3月18日、神風特別攻撃隊菊水部隊銀河隊が築城飛行場を離陸し、九州南東海上の米軍機動部隊の艦船に体当たり攻撃を行った。同年8月9日には空中特攻隊(B29編隊への特攻攻撃部隊)

「天雷特別攻撃隊白虎隊」が築城飛行場から出撃。同年8月11日、天雷特攻隊飛龍隊が岩国基地から築城へ移されたが、飛び立つことなく8月15日の終戦を迎えた。築城飛行場から神風特攻隊が飛び立ったことはあまり知られていない。隊員の遺書や手紙、写真は航空自衛隊築城基地内の航空参考館に残されている。

戦時中の人々の暮らし



防火訓練 (築上町稚田西町)



梵鐘供出 (築上町水原)



仏具の供出 (築上町水原)

昭和17年(1942)6月のミッドウェー海戦以降は戦況の悪化により日本本土への空襲が始まり、築上町内でも空襲に備えた防火訓練や竹槍訓練が行われた。また兵器製造のため、寺の釣鐘や仏具をはじめ、あらゆる金属製品が戦時供出された。兵員不足を補うため、臨時召集令状(赤紙)により多くの民間人や学生が戦地へ送られた。街中では、出征兵士に弾丸除けのお守りとして贈る千人針縫が多く見られた。

「戦争遺跡を巡る」見学会

築城海軍航空隊関連の戦争遺跡をバスで巡ります。

日時：11月16日(土)9時30分集合・出発～15時00分散会予定

場所：(集合場所) 船迫窯跡公園 安浦神社・稲童1号掩体壕広場・広末弾薬庫壕ほか

参加費：500円 *定員20名。(電話による事前申込が必要) *弁当・水筒は各自持参。

主催：築上町教育委員会/問い合わせ：船迫窯跡公園 (0930-52-3771) ※月曜休館